オーストラリアビクトリア州の最初の国立公園について
――なぜTower Hill National Parkは国立公園から取り消されたのか――

染谷　嵩久
（江戸川大学社会学部　現代社会学科　4年）

はじめに

ビクトリア州において初めて国立公園として設立されたタワーヒル国立公園が、なぜ国立公園を取り消されてしまったのか。この課題の重要な点は18世紀の国立公園設立までの経緯と19世紀の国立公園法ができた後の事である。

タワーヒル国立公園は1892年にビクトリア州最初の国立公園として設立されたにもかかわらず、68年の歴史を経て、国立公園は解消され鳥獣保護区(State Game Reserve)となった。その間、ビクトリア州では新たに1898年の7月にウィルソンズ・プロモントリー国立公園(Wilsons Promontory National Park)同年の11月にはマウント・バッファロー国立公園(Mount Buffalo National Park)と次々にビクトリア州内で国立公園が設立された。1956年にはビクトリア州に国立公園法が導入され、自然保護への関心が高まった。ではなぜ、このビクトリア州最初の国立公園は68年という長い間国立公園として指定されていたにも関わらず消滅してしまったのだろうか。

タワーヒルはビクトリア州南西部Moyneに位置し、ワーナンブールとポートフェリーの間のプリンセスハイウェイ沿いのコロイト市(Koroit)にある。当時のタワーヒルは、タワーヒル島(Tower Hill Island)、タワーヒル湖(Tower Hill Lake)、タワーヒル湿原(Tower Hill Marsh)の3つの地形から形成されていた(Downes 1978)。しかし、現在はタワーヒル島のみが存在しており、タワーヒル湖、タワーヒル湿原は残っていない。

1802年にフランス人の地図製作者で植物学者でもあったニコラス・ボーディン（Nicolas Baudin）が発見し、1840年代頃に擁壁に囲まれた城の様な光景からタワーヒルと呼ばれるようになった(Clark 2014)。タワーヒルには貴重な水資源と土壌があったため、1839年に放牧者が急増した(Brady 1992)。また、耕作の適応地として、クレーターの外側から開発が始まった。その結果、次々と木々が切り倒され、タワーヒルの環境は破壊されていったのである。

開発による環境破壊

タワーヒル国立公園は1892年12月5日に成立した。タワーヒルが最初に白人によって発見されてから約90年がたっての出来事である。この間、イギリスからの移民によって開発が進み、環境破壊が起こった後に作られた経緯がある。

1850年代中頃に、メルボルンの都市を美化する為に都市公園ブームが起こり、そのブームは郊外にも広がっていく中で、1855年にタワーヒルのアボリジナルと親交があったジェームズ・ドーソン(James Dawson)は、タワーヒルの自然豊かな原風景を残すことを考え、風景画家であるジョハン・ジョセフ・ユージン・フォン・ジェラルド(Johann Joseph Eugene Von Guerard)にタワーヒルの風景画を依頼し、「Outlook」を完成させた(Bonyhady, 2000)。しかし、タワーヒル湿原と川の間に堤防が設置され、タワーヒルに流れ込む海水が塞き止められ、土地の貸し借りが行われていた。ついにはタワーヒル湖の周辺の土地の販売も始まり、多くの移住者がタワーヒルに押しかけ、それらは更なる環境破壊に繋がった。

1857年にタワーヒルへ訪れていた歴史学、地質学、人類学の教育者のジェームズ・ボンウィック(James Bonwick)はクレーター内を散策し、当時少なからず残されていたシダの美しい風景とタワーヒルの自然や特徴ある死火山の地形を称賛した。彼はタワーヒルの近隣に住むメルボルンとジーロング住民に、タワーヒルを保護しないのは無能だと述べたほどタワーヒルを敬愛していった(Bonwick 1858)。そして、翌年の1858年に地域住民の将来のためにタワーヒルの美しい自然を永久に残しておくべきだと、ビクトリア議会で初めてタワーヒルの保護を訴えたのだ(Clark 2014)。しかし、コロイト市は保護によってタワーヒルの開発に規制がなされることを拒んでいた。

順化による環境破壊

ジョージ・パーキンス・マーシュ(George Perkins

Marsh)が1864年にニューヨークで出版したMan and Natureは、オーストラリア植民地にも普及し大きな影響を与えていた(Hutton 1999)。ビクトリア州で植物に関心を抱いていた植物学者バロン・フェルナンド・フォン・ミュラー(Baron Ferdinand von Mueller)もその本に影響を受け、1871年に美的価値観や健康への影響を公表し、森林保護を訴えた。

1830年、イギリスは、インドとオーストラリアの植民地経営を考えるようになり、帝国主義と関連して順化という考えが取り入れられた。最初の設立は1854年にフランスのパリで市民が集結し、順化協会(La Sociète Zoologique d'Acclimatation)が結成された。目的は導入、順化であり、また実用性(経済利益と食料供給)を実験することだった。順化協会の「順化」とは19世紀に農業、商業、野外スポーツ、健康問題、植民地経営と多様な分野で用いられた言葉である。また、土地の固有種以外の動植物を導入し、土地に馴染ませる環境の改変を当初からの目的としていた。

その頃、タワーヒルでは、1866年2月12日 にジェームズ・マックファーソン・グラント(James Macpherson Grant)が局長をしていたBoard of Land and Worksは、ビクトリアで初めてPublic Parkとして1,450エーカーを保護する事を承認した(Bobt 1886)。同時に、タワーヒルの保護エリアの取り決めや橋の設計に至る議論が、各近隣地域から代表が集まり行われた。そして、タワーヒルの管理団体である順化協会(Secretary of the Committee of Management of the Tower Hill Acclimatization Society)が誕生したのである(Downes 1961)。この順化協会はビクトリア政府から約512haをTower Hill Acclimatisation Reserveとして管理を任せられ、余った国有地を公共利用目的として1,450エーカーを再度保護し、保護対象としていない土地では2年契約で土地の貸し借りを行った。1867年2月に順化協会は、Board of Land and Worksから地域への水の供給と放牧の許可を得た。さらにその地域に人が住むことも許可し、イギリスの風景を作り出すために、外来種である植物やウサギ、ヤギ、キジといった外来動物をタワーヒル内に導入し始めた。外来種を持ち込んだことで、タワーヒルの環境破壊はさらに拡大した。

タワーヒルを守る為の新たな管理運動

1871年Board of Land and Worksの局長を務めたグラントは、タワーヒルの土壌や豊富な水資源を美しい自然として残していきたかったのである。彼が局長の時は比較的保護が重視されていて、同年11月にBoard of Land and Worksは約400エーカーを森林保護のために残すことを宣言し、翌年5月17日 に「タワーヒル州有林」と公報したのである。なんと世界初の国立公園となったアメリカのイエローストーン国立公園設立の3カ月後の出来事であった。

タワーヒル州有林成立後は、ワーナンブールの事務弁護士を務めたスタニスラウス・ジェームス・ベイリー(Stanislaus James Bayly)が、風景に適合した有益な樹木を植栽し、約12から14エーカーの樹木を整備の為伐採した(Downes 1961)。彼はシダや樹木のある場所をPermanent Reserveにしたかったのである。そして、翌年の1873年7月25日にタワーヒルの国有地が、Board of Land and Worksの帰属の土地となり、ついに9月8日にタワーヒルの島と湖を含めた1,475エーカーがPermanent Reserveと認められたのである。しかしながら、実態としては環境破壊が進んでいったと言える。

Permanent Reserveとなり、まずは1874年11月13日に管理委員会「順化協会」のメンバーが変更された(Downes 1961)。しかし、1875年10月から1878年に掛けて特別規制がない採掘が行われた。さらに、1879年には放牧地として認められたのである。

1880年からメルボルンの拡大に伴い都心周辺部では人口が増加していた。その頃、1881年11月にコロイト市の土地大臣は、タワーヒルが保護地域として機能していないことを指摘した。翌年の9月13 日にBoard of Land and Worksは新たに公共のレクリエーション目的とした管理委員会をコロイトとYangery地区で構成し、ベルファストやワーナンブールの市長、コロイトの市長とその他の関係者なども加えられた。そして、管理委員会の利益は保護の改善に利用されなければいけない、また年次の支出報告書を制作するなどの規則ができた。だがその3年後の1884年に、コロイト市以外の市はタワーヒルとの距離を理由に管理委員会から離脱していき、残されたコロイト市での管理が始まった。1885年にコロイト市によって樹木の伐採やウサギの駆除などが行われ、1888年後半ワーナンブールからコロイトの間に鉄道の建設が行われた。その期間中に、タワーヒルでは土建業者によって採掘が行われていたのである。

国立公園の予兆と成立

1884年12月13日のザ・アーガスの記事によるとザ・バガボンド(The vagabond)の愛称で知られていたジュリアン・トーマス(Julian Thomas)がタワーヒ

ルを訪れ、自分の記事にタワーヒルの環境が悪化している様子を公表した(Clark 2014)。1884年には美しいビクトリア(Picturesque Victoria)シリーズを紹介している。また、トーマスは1883年にザ・アーガスでイエローストーン国立公園とヨセミテの事を紹介している(Vagabond 1883)。この様な新聞記事はビクトリアの国立公園設立を促したと考えられる。

1889年1月にはニューサウスウェールズの首相ヘンリー・パークス(Sir Henry Parkes)は各植民地の団結を強めるため、連合の形成を要求し、1890年2月6日にはオーストラリア連合会議(Australian Federation Conference)がメルボルンで開かれた。また、同年にはベアリング恐慌が勃発していた。そんな中、コロイト市は1889年から鉄道の創業が開始し、首都となる準備をしていたのである。オーストラリアの大きな社会変動が起こる中で、1891年にドーソンは再度タワーヒルに訪れ、1891年2月24日、3月10日、4月7日に地方新聞のキャンパーダウン新聞(Camperdown Chronicle) でタワーヒルの環境の悪化を指摘し、Public Parkとしての保護を訴えていた(Clark 2014)。また、1891年にコロイト市の地元新聞であるKoroito Sentinel and Tower Hill Advocateの経営者が変わり、タワーヒルは環境が破壊されているにもかかわらず、コロイト市のもっとも人気のある美しいリゾート地であると紹介し始めたのである(Argus 1957)。これも連邦が成立した時にコロイト市が首都となるためのアピールだった。この様に自然保護への訴えや社会変動などの条件が重なり、タワーヒルの保護が求められるようになったのである。そして、当時の衆議院だったブライアン・オログレン(Sir Bryan O'Loghlen)はビクトリア最初の国立公園設立のために、タワーヒル国立公園法案(Tower Hill National Park Bill)を1891年に提案し、二回の審議の後、1892年12月5日にタワーヒル国立公園法(Tower Hill National Park Act)として法が可決され、タワーヒル国立公園が設立したのである。

タワーヒル国立公園成立と連邦成立が与える影響

1892年にタワーヒルが国立公園として設立されてからはコロイト行政区が管理することになったが、恐慌の影響もあり管理をするための財源は乏しかった。そして、納税者の負担を減らすためにコロイト行政区の評議会は国立公園の取り消しを再度強く求める行動が起こる。それは強行的で、議会は道を作るための材料を採取するために採掘場をもうけた。1894年にはタワーヒルに7つの穴を掘り大規模なゴミ捨て場が建設され、タワーヒル国立公園は国立公園としての利用がなされていなかったのである。その後、1901年にオーストラリア連邦が成立し、1927年まではメルボルンが仮の首都になった(Bonyhady 2000)。

1914年7月21日に第一次世界大戦が勃発し、その後、1924年に地元の小学生らがState Friendly Commissionから植林するためのマツの木を受け取り、約600本を植林した。徐々にタワーヒルの再生が行われ、1936年1月21日(火)の記事ザ・アーガスには、タワーヒル島と川はビクトリア州の美しいスポットとして紹介された(Argus 1936)。

1946年に植物学者のモリソン・フィリップ・クロスビー(Morrison Philp Crosbie)、ジョン・ロスリン・ガーネット(John Roslyn Garnet)らの自然保護を主張する者たちによる自然保護のための運動が始まり、クイーンズランドをモデルとしてビクトリア州での管理を行うことを決定した(Bonyhady 2000)。モリソンは、管理資金の管理は国立公園局(National Park Authority)が行う事が望ましいと州政府に訴えたが、州政府はこれを無視し、タワーヒル国立公園ではバイクのレーストラックをクレーター斜面に設置した。その後、1952年にモリソンはビクトリア国立公園協会(Victorian National Parks Association)の会長になり、ジョンはその秘書を務めた(Bonyhady 2000)。

1953年と1955年にメルボルンのタウンホール(Town Hall)で公園管理についての会議が開かれた。その時に会議に同席していたデワー・ウィルソン・グッド(Dewar Wilson, Goode)が翌年に国立公園を改善する必要性を提言した。それは同年に開催されたメルボルンオリンピックに便乗された為である。その年の 10月30日に制定された国立公園法の目的は、①国立公園の管理、②絶滅に瀕している野生動植物、景観の保護保全、国立公園の自然科学、歴史の関心を持たせる、③現存する国立公園の環境維持、④教育の提供かつ利用者への興味関心を与え楽しんでもらう事が目的で、国立公園局の下で自然保護の為の管理がされていた(Australasian 2016a)。タワーヒルにおいても環境破壊から守るために国立公園となったが、その後も環境破壊が進み、新しい国立公園法の質の低下が問題視され、1956年の国立公園法の対象から外されてしまったのである。しかし、国立公園法ができた後もタワーヒルは国立公園という名前で存在していた。国立公園からの抹消にはコロイト市との相談が必要だったが、メルボルンオリンピックとも重なり相談が持ち越されていたのである(Bonyhady 2000)。その結果、国立公園として残されてはいたが、国立公園局はタワーヒル国立公園を管理管轄から外され放置されビクトリ

ア州から見放されたのである。

鳥獣保護区に向かっての努力

しかし、ビクトリアの国立公園と同等にタワーヒルを国立公園として管理する事を求める者も出てきた。モリソンはタワーヒル国立公園をビクトリア南西部の国立公園として保護していくために、資金問題に視点を当て、国立公園の管理規則を定義した。その後、国立公園局の創立メンバーのデワー・ウィルソンはモリソンの意見に同意、コロイト市は州での管理に異議なく賛成した。理由は道路を作るための採掘で得る利益が衰退していた事と、国立公園局がタワーヒルの管理の為に資金の提供があると見込んでいた。

オーストラリアの環境保全主義者に影響を与えたアルド・レオポルド(Aldo Leopold)が、1949年に出版したSand County Almanacは、狩猟スポーツを利用した動植物の維持が述べられている。これに注目した人物がドーンズ・マクスウェル・クリストン(Downes Maxwell, Crichton)である。1950年の前半にビクトリア州では狩猟のための鳥が減少傾向にあり、その問題を解決するためにオーストラリアの生物学者たちはイギリスに注目していたが、ドーンズはレオポルドのアメリカの思考を取り入れようとしていた。タワーヒルを鳥獣保護区にし、狩猟限定する期間を設ける事で持続可能な狩猟と環境の回復が狙いだった。オーストラリア政府初の生物学者であるドーンズは、(Fisheries and Game Branch)と共に水鳥についての調査を行い、1950年前半には狩猟のための鳥が減少していることを明白にした。ドーンズはビクトリアにとってタワーヒルは渡り鳥の飛行ルートに重要であることをコロイト議会で訴えた。

他の州では1900年に娯楽の為の狩猟の意味を持つ〈game〉という単語は使われなくなっていたが、ビクトリアでは〈game〉は1950年代まで使われていた。そこで、ドーンズは水鳥の減少は(Game Act)と、農務省による湿原の破壊が原因であると指摘し、環境を取り戻し、水鳥を定着させることを望んでいた(Bonyhady 2000)。そして、ドーンズは1958年に政府の力を借りるためにVFGA(Victorian Field and Game Association)設立の援助をした。州政府は狩猟を規制するために、ゲームライセンスを導入したが、ビクトリア州のハンターは規制が掛かる事で自由に狩猟が行えなくなることを理由に、ゲームライセンスへの反対運動を行い始めた。また、同年の1958年に、地元の自然保護主義者は鳥の生息地を取り戻すことを理由に狩猟の禁止を求めた。この時点で狩猟を行いながらの植生復元を狙うドーンズと、これ以上の環境の悪化を拒み狩猟の禁止を求める地元の自然愛好家、狩猟を娯楽としている者との確執があったが、コロイト市に関しては利益のためにGame Reserveとして管理していくことを主張していた。1958年3月にFNCVによる会議が開かれ、1959年2月にFNCVにより在来種の植林が計画された。1958年3月FNCVは創立総会を開催し、1959年2月にコロイト行政区評議会から大規模な緑化計画の許可を得たのである。しかし、タワーヒル本来の環境を知る者は誰もおらず、詳細に書かれた資料もない状態だった。そこでドーンズが参考にしたのが1855年のジェラルドの油絵「Outlook」であった。油絵には自然破壊が起こる前のタワーヒルの風景が詳細に描かれていたため参考にされたのである。1960年ドーンズは、植物学者のジョンに13種の在来植物の同定を依頼した。しかし、作品はオーストラリアの風景とは遠い存在であり、この時のタワーヒルとは全く別の風景であると地域住民からも批判されていた。その後、メルボルンにあるイザベラの娘K.P.M ウィンター(K.P.M. Winter)の自宅へドーンズが偶然訪問した時に原画を発見し、本物の油絵とタワーヒルを比較した。そして、見事に一致していることを証明した。そして、タワーヒルの湿地は消滅する寸前であったが、その価値も理解され管理はタワーヒルの動植物の復元を目的としたビクトリアの管理省(Ministry of Conservation)のFisheries and Game Branchによって再生運動が計画され、10月にビクトリア議会は経済的利益を選び、1960年にビクトリアのState Wildlife Reserve Investigation CommitteeはFisheries and Wildlife Branchによる管理を認めた。そして、タワーヒルは1960年12月13日に鳥獣保護区にするためのTower Hill and Malmsbury Lands Act 1960が承認され、国立公園から正式に抹消されたのである(Australasian 2016b)。ビクトリア政府は自身で管理をするためにタワーヒルの斜面約110エーカーの土地を購入し、1961年タワーヒルは野生生物法(Wildlife Act)の下でタワーヒル鳥獣保護区(Tower Hill State Game Reserve)としてようやく管理されることになり、タワーヒルは、国立公園よりもタワーヒルの自然保護に適合した鳥獣保護区になったのである。

結論

ビクトリア州最初の国立公園となったタワーヒル国立公園が、後に国立公園を取り消され、ビクトリア州初の国立公園の地位をウィルソンズ・プロモントリー

国立公園に事実上奪われた成立と消滅過程について調査研究を行った結果、分かったことは次の通りである。

第1. 社会改変による資源利用

ビクトリア州では18世紀に渡豪してきたイギリス人の開拓が進んだが、タワーヒルは人々の居住や生活に適した水資源、土地の利用が可能だった為に、本来の国立公園の目的とする「自然保護」と「人々のレクリエーション利用」よりも産業利用に重点が置かれ、一部の自然保護運動家たちによる運動があったにもかかわらず、経済優先の社会体質に負けてしまった。特に1851年に始まるゴールドラッシュは土地ブームを正当化し、開発の需要が非常に高かったこともこういった現象に拍車をかけたのである。したがって、タワーヒル国立公園は元祖アメリカの国立公園の理念をストレートに伝承することなく誕生したのである。

第2. 順化による環境破壊

タワーヒルでは1866年にビクトリア州でも初めて順化協会の手が委ねられたが、順化協会の当時の目的は順化であり、タワーヒルの自然生態系をありのまま保護し、それを人々のレクリエーションというよりは、依然として、産業利用の目的意識が強く出ており、森林の伐採、放牧、鉱業等の産業利用が続けられたのである。それらを阻止すべく国立公園となったものの、実際としては以前と変わらぬ産業優先の利用が続き、環境破壊は目に余るものがあった。

第3. 自然保護の出遅れ

当時のオーストラリアは順化運動が盛んで、本国のイギリスから移入種の動物がどんどん運び込まれ、オーストラリアの自然が改変させられていった時期である。したがって、ビクトリアを代表するタワーヒルの本来の風景も改変させられていき、国立公園の風景としての価値が失われつつあった。そういった社会の変化に伴い、徐々にオーストラリアの風景を見直そうという社会現象が起こり、オーストラリアに景観保護を訴える研究者や政治家も出てきたが、当時のメルボルン並びにその近郊にあったタワーヒルは開発による経済発展を望む声によって、流れが自然保護の方向ではなかった。さらに2度にわたり経済恐慌が、産業利用を後押しする形となり、タワーヒルの保護は難しい状況であった。

第4. タワーヒルへの適応した管理の採用

その結果、取られた苦肉の策が、国立公園から鳥獣保護区への鞍替えである。タワーヒルを国立公園から鳥獣保護区にすることにより、一定の狩猟を許可し、その許可料を保護区の管理運営費用に充てようとしたのである。鳥獣保護区という響きは国立公園より一段格下の保護区のイメージとなるが、保護管理の運営費用を捻出するためにはやむを得ない処置と考えられたのである。したがって、多くの自然保護を進めようとした研究者や運動家たちは、こういった保護区にすることで、より自然を保護できると解釈したのである。名前より実をとって、タワーヒルを保護していこうと考えたのである。したがって、タワーヒル国立公園の消滅はけっして、国立公園からの格下げではなく、むしろタワーヒルの保護をしていく上での最善策として取られた名称変更であった。また、かつてこの地に生活をしていたアボリジナルとの協働を模索し、現在ではWorn Gundidj Aboriginalという団体にその管理を委ねているのである。そういった点で見るとタワーヒル国立公園の消滅はタワーヒル国立公園が蘇生復活するための必然的な流れであり、保護地域の名前こそ異なるものの、タワーヒル国立公園の保護強化の生き残りをかけた選択だったと言えるのではないだろうか。

参考文献

Australasian Legal Information Institute, 2016a, “Victorian Historical Acts- National Park Act 1956”, Australasian Legal Information Institute, Sydney: University of Technology of Sydney New University of South Wales. (2016, 9, 26)

——, 2016b, “Victorian Historical Acts- Tower Hill and Malmsbury Lands Act 1960”, Australasian Legal Information Institute, Sydney: University of Technology of Sydney New University of South Wales. (2016, 4, 16)

Anita Brady, 1992, *A centenary History of Tower Hill*, Victoria: Department of Conservation and Natural Resources.

Bobt. S. Bbain, 1886, “Statistical Register of the State of Victoria”, Statistical Register of the State of Victoria, Melbourne: Government Statist of Victoria. (2016, 10, 1)

Clark, D. Lan, Lisa Justin, Ever Dolce, Sharnee Sergi. Stephanie Skidmore, Jaimie Watson, 2014, *An Historical Geography of Tourism in Victoria*,

Australia: walter de Gruyter & Co.

Downes, M.C, 1961, *The History of Tower Hill to 1892*, Koroit: Fisheries & Wildlife Division, Tower Hill State Game Reserve.

——, 1979, *Tower Hill: Historical Material From History of Tower Hill to 1892*, Victoria: Imperial Chemical Industries of Australia and New Zealand Ltd and Fisheries and Wildlife Department.

Drew Hutton, Libby Connors, 1999, *History of the Australian Environment Movement*, New York: Cambridge University Press.

Graeme Worboys and Michael Lockwood and Terry De Lacy, 2001, *Protected Area Management: Principles and Practice*, South Melbourne: Oxford University Press.

James Bonwick, 1858, *Western Victoria; its geography geology and social condition The narrative of an educational tour in 1857*: Thomas Brown.

The Vagabond, 1883, "Round About New Zealand," The Argus: 1-18.

The Argus, "1957: A year of Fulfll Ment," Crosbie Morrison Wildlife, Melbourne P15.

Tim Bonyhady, 2000, *The Colonial Earth*, Melbourne: Melbourne University.

The Argus, 1936, "Tree Planting at Tower Hill," The Argus: 1-16.